ご　あ　い　さ　つ

愛知県高等学校視聴覚教育研究協議会長

愛知県立安城南高等学校長

加　藤　真理子

　会員校の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、平素から本研究協議会の活動に格別のご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

　私は、１年前の総会において前任の加藤千景会長の後を受け、本会の会長に就任しました。今年度は新型コロナウイルス感染症が５類移行となり、コンクールや研究会開催の制約も少なくなって、少しずつコロナ以前のように実施することができるようになりました。しかし、コロナ対応の状況で培われたノウハウも生かされ、第61回東海北陸地方放送教育研究大会は、昨年同様８月にオンラインで開催されました。盛会のうちに終えられましたのも、ひとえに会員校の皆様のご尽力の賜物です。改めて感謝申し上げます。

　コロナ禍もある意味追い風となって、文部科学省のGIGAスクール構想によるICT環境の整備が急速に進んでいます。「個別最適な学び」や「協働的な学び」に取り組みながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に、各学校で様々な試行錯誤がされています。ICTを効果的に活用しながら、生徒の学びを充実させられるように、教師のスキルアップが求められています。教員の情報活用能力、データリテラシーを向上させ、変化に臆することなく、常に新しい知識・技能を学び続けていくことが必要です。そのためにも、研修等におけるICT機器の積極的な使用や、オンラインも含めた効果的な研修の実施が望まれます。

　愛知県高等学校視聴覚教育研究協議会では、各地区で研修のための講習会や講演会を実施しています。令和５年度西三河地区研究会では、「MicrosoftTeams を活用した公務の効率化」と題して名古屋工学院専門学校の神谷裕之先生を講師とした講習会を開催しました。私は公務のため参加できませんでしたが、講義では、Teamsの活用上の留意点や実践例についてお話しいただき、実習では、パソコンを利用してTeamsに触れながら、資料投稿の方法や他のアプリケーションとの連携の仕方、テストフォームの作成方法など多岐にわたる内容を学んだようです。現在、学校で使用されているオンラインサービスは各学校に運用が任されていますが、選択肢が多く、試行錯誤の状況だと思われます。しかし、何を選択するにしろ、生徒たちが主体的に学んでいくために機器を使用できるようになることは大切ですし、教員も業務の効率化や授業改善に、ICTを利用しない手はありません。今後も多くの先生方が校内だけでなく、校外でも研修を受講できる機会を設けることが必要であると考えます。

また、高視協の中の組織である放送コンテストについても、参加者が増加し、上位大会に向けて切磋琢磨しながら素晴らしい成果を上げています。今後も生徒が挑戦し、技術を磨いて輝ける発表の場を提供していきたいと思います。